

現状及び課題

✓ 平成21年度以降、二次保健医療圏を単位とした圏域別検討会を設置し、「糖尿病地域連携の登録医療機関」を中心とした糖尿病地域連携体制を構築

主な取組内容	概要
「糖尿病地域連携の登録医療機関」制度に係る取組	医療機関の新規登録・変更・抹消手続や未参画の医療機関への参画を促進
糖尿病性腎症重症化予防を含む糖尿病の合併症予防等の総合的な取組	地域の医療機関や関係機関と連携し、糖尿病合併症予防に関する情報共有や連携体制を構築
地域の住民及び医療従事者に対する糖尿病対策に係る普及啓発活動	関係機関と連携し、市民公開講座や医療従事者研修会等を開催し、地域の住民及び医療従事者に対する糖尿病に関する普及啓発を実施

- ✓ 今後、高齢糖尿病患者の増加が見込まれることから、以下の点を踏まえ、より実効性の高い糖尿病地域連携体制を構築する必要がある。
- 登録医療機関数など、二次保健医療圏毎の取組状況に差がある。
 - 検討会事務局について、慢性的な人手不足の影響等により担い手となる医療機関が少なくなっている状況にある。
 - 介護・福祉分野との連携が不十分である。

今後の進め方（案）

✓ 現行体制における取組の実態把握・課題整理を実施し、必要に応じて次期保健医療計画（令和12年度～）改定の際に体制を見直す。

<スケジュール>

令和 8 年度			令和 9 年度			令和 1 0 年度			令和11年度		
				● R 9協議会 ➢ 実態把握中間報告			● R 10協議会① ➢ 課題整理の報告 ➢ 今後の進め方について	● R 10協議会② ➢ ヒアリングの報告 ➢ 見直しの方向性について		● R 11協議会 ➢ 保健医療計画の改定について	
検討に向けた準備			「糖尿病地域連携の登録医療機関」等 圏域別取組の実態把握・課題整理			有識者ヒアリング 見直しの方向性検討			保健医療計画 の内容検討		

ご意見いただきたい主な論点

- ① 今後の高齢糖尿病患者の増加を見据え、どのような取組を強化すべきか
- ② 糖尿病医療連携の推進に当たり、連携体制の圏域設定をどのように考えるべきか（都全域、二次保健医療圏、区市町村等）
- ③ 圏域設定の検討に当たり、考慮すべき事項は何か <（例）1型糖尿病と2型糖尿病の特性の違い、糖尿病専門医等の医療資源の地域偏在 など >

参考：糖尿病圏域別検討会事務局の変遷（令和元年度～）

	圏域名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
区部	区中央部	東京慈恵会医科大病院							
	区南部	NTT東日本関東病院							荏原病院
	区西南部	日本赤十字社医療センター				三宿病院			玉川病院
	区西部	東京女子医科大学病院					東京医科大学病院		
	区西北部	練馬総合病院	大塚病院		健康長寿医療センター				東京北医療センター
	区東北部	東京女子医科大学東医療センター		東京慈恵会医科大葛飾医療センター					
	区東部	順天堂東京江東高齢者医療センター							
市部	西多摩	西多摩医師会							
	南多摩	多摩市医師会		多摩南部地域病院				多摩南部地域病院	町田病院
	北多摩西部	災害医療センター	立川病院		災害医療センター		立川病院		
	北多摩南部	多摩総合医療センター	慈恵第三病院	杏林大病院	武蔵野赤十字病院	多摩総合医療センター	慈恵第三病院	杏林大病院	武蔵野赤十字病院
	北多摩北部	小平市医師会		東久留米市医師会		西東京市医師会		東村山市医師会	